

表. モデル事業6地区の取組状況

| | 名古屋市 | 早稲田 | 平塚 | 目白 | 大丸有 | たまプラーザ |
|----------------------------|--|--|--|---|---|---|
| 1. 防災のプロやセミプロではない民間における取組み | <ul style="list-style-type: none"> 名古屋市が呼びかけ、中部経済連合会及び名古屋駅周辺事業者が連携して防災対策を検討。 | <ul style="list-style-type: none"> 商店街活性化一環としての取組み、早稲田商店街を中心に活動を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> NPO法人や住民代表等既存の街づくりグループを中心にひらつか防災まちづくりの会が発足。 | <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺地区整備推進協議会を発展させ、「目白まちづくり倶楽部」発足。環境、防災、防犯などの問題に、ハード、ソフト両面からアプローチ。 | <ul style="list-style-type: none"> 大手町、丸の内、有楽町地区再開発計画推進協議会に参加する企業が中心となって、防災対策を検討・企画。 | <ul style="list-style-type: none"> 開発後長期間を経過したニュータウンを対象に、開発企業が中心となり新たなまちづくり拠点の設置を構築。 |
| 2. 必ずしも防災から始めた取組みでないもの | <ul style="list-style-type: none"> 東海地震対策を主目的として、帰宅困難者対策を視野に入れた検討調査から活動が始まった。 | <ul style="list-style-type: none"> 元々は、環境問題に商店街として取り組んでいたところから、防災の問題に係るようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> 花水地区の小・中学校のPTAの方々が中心に、地域の防災活動グループが連携して、活動が広がっていった。 | <ul style="list-style-type: none"> 目白駅周辺再開発や駅前広場整備に関し、街づくり提案を行い、歩道整備等を実現させた。再開発が一段落し、次のステップとして防災まちづくりに取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 大手町、丸の内、有楽町地区再開発計画推進協議会のまちづくり検討会において、防災まちづくりについて検討を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 開発企業や地元CATV会社を起点とした企業と居住者の複合組織としてコミュニティ活動が始まる。 |
| 3. アウトリーチへの取組み | | <ul style="list-style-type: none"> 地域内の町内会や大学等に幅広く声をかけ、商店街の取組みを「まち」の取組みへ発展させようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中学校、PTAと連携するほか、地域内の様々なイベントに参加、防災関係の出席をすることで、市民の関心を高める努力をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 町内会を通じたアンケートを実施。防犯訓練等、住民の関心の高いところから取組みを展開。 | <ul style="list-style-type: none"> 中心となる企業を核に、まちづくり検討会の有志企業で『防災隣組』が立ち上がっている。他方、千代田区はこの動きを基に帰宅困難者対策を区と共に進める地域協力会を地元企業の参加を募り設立 | <ul style="list-style-type: none"> 市民との交流拠点としての「サロン・ド・防災」を実験的に設置。防災シンポジウム、地元FMを通じた防災レクチャー等の情報提供活動を行っている。 |
| 4. 地域防災力の自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> 地下街などへのアンケート調査などを行い、案内の視認性などの問題把握に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 早稲田大学などと連携して、小学生とその保護者を対象に、道路の危険箇所調査を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 街歩きなどを通じて、平塚の災害の際の路地の危険度など、現状評価・共有のためのワークショップを実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 滋賀県立大学の学生の協力により、街の危険度調査や防災・防犯アンケート調査を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 帰宅困難者問題にクローズアップした調査を進めており、地区独自の、防災まちづくりの取組みの検討を進めている。 | |
| 5. 活動におけるボランティア性 | | <ul style="list-style-type: none"> 遊び心と本音で動く防災活動をしている。また、商店としても儲かることで、多くの協力が得られ防災活動にもつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 震災経験者のお話をうかがう会の開催や、紙芝居などを通じて、災害の怖さを実感してもらう試みを行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 地元商店街に働きかけてイベントなどを行うことを検討している。 | <ul style="list-style-type: none"> 防災隣組、帰宅困難者対策地域協力会ともに、ボランティアな参加者・参加企業を募っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 地元企業と居住者の自発的参加で成り立っている。 |
| 6. 取組みにおけるパートナーシップ | | <ul style="list-style-type: none"> 全国の商店街と協力して疎開パッケージや、地元企業と連携して、飛散防止フィルムの売り出しなど、行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な活動グループをネットワーク化することで主婦層などの参加が増え年代も幅広くなり、活動の輪が広がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 会議はオープンになっており、自治会や商店街への参加を呼びかけ、参加者が序々に増えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 大手町、丸の内、有楽町地区再開発計画推進協議会における、検討会等を通じて、企業間連携を進めている。 帰宅困難者避難訓練を千代田区と共催（地域協力会）。 | <ul style="list-style-type: none"> 開発企業、地元CATV会社の社員と多摩プラーザ居住者との連携により活動が推進している。 |